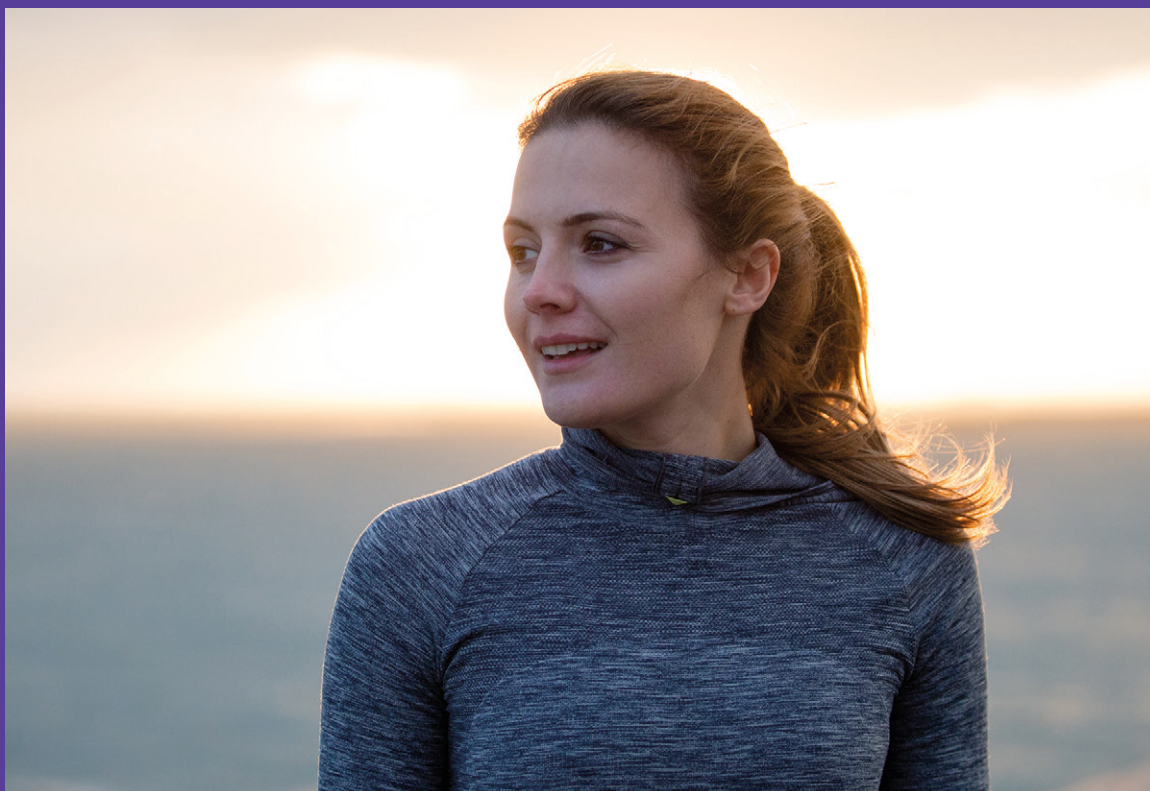


NATIONAL **CERVICAL SCREENING** PROGRAM

A joint Australian, State and Territory Government Program



子宮頸がん検診の結果を
正しくご理解いただくために



Australian Government

はじめに





このパンフレットは、子宮頸がん検診の結果をよりわかりやすくご理解いただくための情報集です。

担当の医療従事者から結果報告を受け、次のステップを検討する流れとなります。

不正出血や痛み、おりものなどの気になる症状があれば、いつでもすぐにかかりつけの医療従事者に相談することが大切です。



子宮頸がん検診

新しい子宮頸がん検診は、パップテストに似ています。新しい子宮頸がん検診は、最新の医学と科学の検証に基づき、子宮頸部の異変の原因となるウイルス感染の有無を早い段階で検出するのに、より良い効果を上げます。

子宮頸がんがどのように進行するかについての解明はかなり進んでいます。子宮頸がんはまれで、ウイルスによって前がん状態の細胞が子宮頸がんに進行するまでに10年以上かかるのが一般的です。

新しい子宮頸がん検診の導入に伴う全国子宮頸がん検診制度 (National Cervical Screening Program) の改正によって、女性の子宮頸がん予防率は最高30%高まると期待されます。

子宮頸がん検診は何を検出するのか？

子宮頸がん検診は、子宮頸部内の細胞がヒトパピローマウイルス (HPV) に感染していないかを確認します。

HPVはとても一般的なウイルスで、多くの人がある時点で、保菌者となりますが、通常は何の症状もなくまったく気づかないまま過ごします。

HPVとは？

HPV感染には様々な型がありますが、ほとんどの場合は、体の免疫機能によって1~2年で排除され、健康に害となることもありません。

HPVの感染はとても一般的で、性交渉を通して性器の皮膚間接触で広がります。HPVはとても一般的なウイルスで、多くの人がある時点で、保菌者となりますが、通常は何の症状もなく、まったく気づかないまま過ごします。

まれに、体の免疫力によって排除されなかったある一定種のHPV感染が、子宮頸部の細胞に異変をもたらします。



子宮頸がん検診の結果

結果が出るとどうなるのか？

担当の医療従事者から、本人への子宮頸がん検診の結果説明があります。

結果内容の例：

- 5年後に再検診
- 12か月後にHPVテストの再検診
- 専門医に紹介
- 検診結果無効

5年後に再検診する

検診の結果、HPV感染は検出されませんでした。

全国子宮頸がん検診制度から、5年後の子宮頸がん検診の案内が届きます。最新の医学的および科学的検証に基づき、5年後の再検診で安全との結果です。

12か月後にHPVテストの再検査をする

検診の結果、精密検査の必要性は認められませんが、12か月後に再検診を受ける必要があります。

HPV感染が確認されましたが、体の免疫力によって12か月以内に排除される可能性が高いという結果です。

12か月後に再検診することで、ウイルスの排除と5年後の再検診で安全であることを確認します。

再検診の結果、HPV感染が残っていた場合、専門医による検査が必要となる場合もあります。それは、がん発症を意味するものではありません。HPV感染から子宮頸がんに進化するまでに10年から15年かかり、子宮頸がんの発症はまれです。

専門医への紹介

検診の結果、専門医による詳しい検査が必要なHPV感染が確認された、もしくは、治療を要する細胞組織の異常が確認されたという意味です。

がんを発症しているという意味ではありません。HPV感染から子宮頸がんに進化するまでに10年から15年かかり、子宮頸がんの発症はまれです。

コルポスコピーという精密検査を行う専門医に紹介されます(詳細は「コルポスコピーとは?」のページをご参照ください)。

この検査結果が出た場合は、担当の医療従事者の指示に従うことが大切です。

検診結果無効

検診結果無効とは、何か異常があるという意味ではありません。検診結果無効とは、採取した細胞を正しく読み取ることができなかったことを示し、よって、6週間後に再度検診を受けることが大切です。

検診結果無効は、採取した細胞が研究所で正しく読み取れなかった場合に報告されます。原因としては、採取した細胞の数が少なすぎたなど、様々な背景があります。

早期に発見された異常は、ほとんどの場合、簡単に治療でき、治癒します。治療しないで放置すると、子宮頸がんに進化する可能性が高くなります。

子宮頸部の検診は、子宮頸がんの発症を防ぐためのものです。検診結果が気になったり不安を感じたら、担当の医療従事者にご相談ください。



子宮頸部の検診は、子宮頸がんの発症を防ぐためのものです。検診結果が気になったり不安を感じたら、担当の医療従事者にご相談ください。



子宮頸部の検診は、子宮頸がんの発症を防ぐためのものです。
検診結果が気になったり不安を感じたら、担当の医療従事者にご相談ください。



専門医に紹介されると、どうなるのか？

検診結果によって、精密検査を受けるよう、担当の医療従事者から専門医への紹介が行われます。以下、この場合の手続きや治療に関する情報です。

コルポスコピーとは？

コルポスコピーとは、子宮頸部の検査方法です。専門医は、台座に設置された双眼鏡のような拡大鏡を使って、子宮頸部の中の様子を見ながら検査します。コルポスコピーは一般に、産婦人科の専門医によって行われます。担当の医療従事者は、コルポスコピーを受けるための専門医選びに協力します。

コルポスコピー検査の流れは？

予約当日に、検査に関して知りたいことは何でも置きなく質問してください。検査中に何をしているのかを専門医に尋ねることで気が楽になるのであれば、そうしてください。

コルポスコピー検査では、子宮頸がん検診を受けた時のように、両足をサポート台に乗せ、ベッドに仰向けになるよう指示されます。子宮頸がん検診時のように、専門医が検鏡を膣の中に挿入します。そうして、異常部分を染色するための液状の試薬が子宮頸部に塗られます。

それから専門医は、コルポスコピーを使って子宮頸部の中を詳しく診察します。コルポスコピー自体は体内に挿入されません。

この検査は通常、10-15分を要し、ほとんどの場合、痛みを感じることはありません。ただし、膣内に検鏡が挿入されるため、不快に感じることもあります。

検査中に何か発見された場合、専門医にそれが何なのか説明してもらいましょう。

生体組織検査とは？

コルポスコピーで子宮頸部に異常が認められると、異常が認められる部分から組織の一部が採取されます(生検)。

採取された組織は、研究所に送られ検査されます。

生検結果が担当の医療従事者に届くまでに、長くて2週間ほどかかります。担当の医療従事者に予約を取り、検査結果を確認し、(必要であれば)治療方法についてご相談ください。

生検を受けた後しばらくの間、痛みを感じることもあります。生検後24時間は激しい運動を避け、1-2日間、性交渉を控えるのが賢明です。シャワーはできますが、1-2日間は、水泳や入浴、スパの利用は避けてください。

こうした注意事項は、出血や感染などのリスクを抑えるためのものです。検査後数時間は、おりものなどで下着が汚れる場合があるので、薄い生理用パッドなどを持っていくと便利です。

異常部の治療

コルポスコピーで異常が発見されると、さらなる治療が必要となることもあります。担当の医療従事者が、患者の個人的な状況に最も適した治療方法について、検討、説明します。

治療方法には、ワイヤーループ切除法、レーザー治療、円錐生検などがあります。以下は、各治療法に関する簡単な説明です。

ワイヤーループ切除法

子宮頸部の中の異形細胞を、ワイヤーループで切除する施術です。

施術には15~30分を要します。ほとんどの女性は、局部麻酔を使って施術を受けますが、中には全身麻酔が必要な人もいます。全身麻酔の場合は、全日、病院で休むこともあります。

レーザー

レーザー治療では、レーザー発光の熱を利用して、異形細胞を取り除きます。施術には15~30分を要します。ほとんどの女性は、局部麻酔を使って施術を受けますが、中には全身麻酔が必要な人もいます。全身麻酔の場合は、全日、病院で休むこともあります。

円錐生検

簡単な手術で、異形細胞が含まれる子宮頸部の中の円錐形の部分を取り除きます。通常、全身麻酔下で行われ、回復には、全日、病院で休むか一晩入院することもあります。

この手術は、異形細胞が子宮頸管の上層部にある場合や腺細胞に影響がおよぶ場合に推奨されます。腺細胞は、子宮頸管の上層部にあります。

注：治療を受けた後はどの場合も、子宮頸部が回復するまで3~4週間は水泳やタンポンの使用、性器挿入を伴う性交渉は控えます。出血や感染のリスクを考慮し、激しい運動は7~10日間、避けてください。

担当の医療従事者の指示に従うことが大切です。



よくある質問

治療で妊娠できる可能性に影響がでるか？

円錐生検やワイヤーループ切除などの治療で、子宮頸部が弱くなることもあります。妊娠できる可能性はありますが、子宮頸部を強化したり、流産のリスクを抑えるために、子宮頸部にスティッチを挿入することもあります。過去に受けた子宮頸部の治療について、担当の医療従事者に知らせることが大切です。

どうやってHPVに感染したのか？

ヒトパピローマウイルス (HPV) は、性交渉時の性器の皮膚間接触で広がります。初めての性交渉時にHPVに感染することもありますし、一人しかいない相手から感染することもあります。

ほとんどの人が、生きている間にHPV感染を体験しますが、通常は体の免疫力でウイルスは排除されます。このウイルスはごく一般的で、性生活に伴う普通の現象と考えられます。

コンドームの使用で、HPV感染をいくらか防ぐことも可能ですが、コンドームは性器全体の皮膚を覆うことはできません。HPV感染から子宮頸がんを発症するには、10-15年を要します。

レズビアンやゲイや、バイセクシャル、トランスジェンダー、インターセックス (LGBTI) の人々も、ウイルスに感染するのか？

はい、性別に関係なく、性器の皮膚間接触を通してHPV感染は起こります。

HPV保菌者になると、性行為を避けるべきか？

子宮頸がん検診でHPV保菌が確認されたからといって、性行為をやめる根拠にはなりません。

HPVウイルスはとても一般的で、ほとんどの場合は、健康に影響することなく体の免疫力でウイルスを排除できるため、パートナーが現在または過去にこの種類のウイルスを保菌していたかどうかを特定することはできません。

自分がHPV保菌者であることをパートナーに伝えるべきか？

このウイルスには長期の潜伏期間があるため、HPVの保菌者だからといって、自分自身やパートナーに対して、不実であるとはいえません。HPVは長期にわたり、不活状態を継続します。ほとんどの場合、いつ、誰からHPVに感染したか特定することはできません。

HPVは、性器イボや、肛門、膣、口腔咽頭（のど）、外陰、陰茎などのがん発症の原因になることもあります。HPV保菌がわかったら、パートナーとそのことを話し合おうと思う人もいるでしょう。自分の子宮頸がん検診の結果についてパートナーと話し合うかどうかは、自由意思で選択すべきことです。

自分のパートナーにHPVをうつすのが心配という人は、担当の医療従事者にアドバイスを求めてください。

HPVはどう治療するのか？

HPVの治療方法はありません。ほとんどの場合、免疫システムによって体から自然に排除され、後々まで残る影響もありません。HPV保菌者の多くは何の症状もなく、感染に気付くこともありません。HPVにより子宮頸部の細胞が変化し、子宮頸がん検診でそれが見つかった場合、さらに詳しい検査を受け、必要に応じて治療を受けてください。

一定の型のHPVによって発生した性器イボは、医療従事者による治療が可能です。

HPVに再感染することもあるのか？

HPVウイルスには異なる型があります。一定の型のHPVに一度感染すると、体はその型のHPVに対して免疫を持つのが一般的で、再度同じ型のHPVに感染することはありません。一方、体の中でウイルスが潜伏し、何年もあとになって活性化することもあります。

そのため、性生活がなくなった人も、パートナーが1人しかいない人も、継続して検診を受ける必要があります。

HPV予防接種を受けたが、まだHPV感染の可能性はあるか？

はい。HPV予防接種を受けてからも、定期的に子宮頸がん検診を受けてください。HPVにはさまざまな型があり、予防接種でこれらすべての型に対応することはできません。予防接種を受ける前に、性交渉を通してすでにHPVに感染していることもあります。HPV予防接種は、接種前にすでに感染している人には効果がありません。

HPV予防接種を受けるべきか？

HPV予防接種は、性生活を開始する前、HPVに感染する前に受けることで最も効果があります。すでにHPVに感染している人には、予防接種の効果は上がりません。

オーストラリアでは、HPV予防接種は学校基盤の予防接種制度を通して、青年期に達した生徒に実施され、認可対象年齢は女性が9－45歳、男性が9－26歳となっています。個人的な効果に関する質問は、担当の医療従事者にご相談ください。予防接種は助成金対象の学校基盤で受けられるほか、学校枠外で個人で料金を支払い受けることも可能です。その場合、医療従事者の診察料がさらにかかる場合もあります。現在は3回の予防接種が推奨されています。

予防接種は安全で、子宮頸がん発症の約7割の要因を占め、肛門や膣、口腔咽頭（のど）、外陰、陰茎などのがん発症要因ともなる2つのHPVの型（16型と18型）への感染を防ぎます。また、がん発症型ではないものの、性器イボのほぼ9割の要因を占める2つの型への予防効果もあります。

詳しい情報の問い合わせ先は？

英語が第一言語ではなく、支援を必要とされる人は、翻訳通訳サービス局に電話**131450**でお問い合わせください。市内通話料金がかかります。

全国子宮頸がん検診制度

子宮頸がん検診制度について詳しい情報を入手し、同制度がオーストラリアでどのように機能しているのかを知りたい人は、全国子宮頸がん検診制度のウェブサイトを参照するか、電話**131556**でお問い合わせください。

www.cancerscreening.gov.au/cervical

全国がん検診制度への登録

個人の連絡先情報の更新や、次の子宮頸がん検診の日程確認をご希望の人は、電話**1800627701**でお問い合わせください。

全国子宮頸がん検診制度は、国と各州政府が共同で運営しています。

全国HPV予防接種登録

HPV予防接種をすでに受けたかどうか、何回受けたかも含めて確認されたい人は、国のHPV予防接種登録ウェブサイトアクセスするか、電話**1800478734**にお問い合わせください。

www.hpvregister.org.au